

## プロジェクト 持続可能な畜産を支える草づくり

## 目 標

- ・二毛作栽培による自給飼料の収量  
R4：3,760kg/10a（青刈りとうもろこし）→ R10：5,800kg/10a（青刈りとうもろこし+ライムギ）

## 挑戦する内容

- ・ライムギと青刈りとうもろこしの二毛作栽培実証
- ・公共牧場の利用体制強化
- ・もみ殻のマッチング体制整備
- ・稲わら・もみ殻等の未利用資源の広域流通体制の確立
- ・**稲WCSの生産利用拡大**

関係者の声  
＝対話

- ・牧草・稲発酵粗飼料（稲WCS）・稲わら等の自給飼料生産を支援してほしい（畜産団体）
- ・粗飼料と敷料の確保に苦労しているためマッチングしてほしい（生産者）
- ・県南地域の畜産堆肥と津軽地域のもみ殻等について、耕畜連携による効率的な運送体制をつくってほしい（畜産団体）

## 役割分担

- ・生産者・コントラクター組織：二毛作栽培
- ・畜産団体・市町村：情報提供、普及啓発
- ・産技センター：現地指導
- ・県：実証試験、もみ殻のマッチングリスト作成、実演会・研修会開催

## 変革後の姿

- ・二毛作栽培体系の普及により自給飼料が増産され、持続可能な畜産が確立
- ・津軽と県南地域でのもみ殻等の広域流通体制が確立

## 令和7年度計画

## 挑戦する内容

- 1 ライムギと青刈りとうもろこしの二毛作栽培実証
  - ・実証試験の結果を取りまとめ、普及に向けた課題等を整理し、二毛作栽培体系のモデルを提示
- 2 公共牧場の利用体制強化
  - ・草地更新を実施した公共牧場から採草し、地域内流通を実施
  - ・飼料供給体制の普及啓発
- 3 もみ殻のマッチング体制整備
  - ・もみ殻のマッチングリストの公表
- 4 稲わら・もみ殻等の未利用資源の広域流通体制の確立
  - ・もみ殻のストックヤード設置に向けた協議会の設立及び運営方法の検討
  - ・令和6年度に実施したもみ殻のストックヤード実証結果の報告会を開催
  - ・施設整備への支援策の検討
  - ・稲わらサイレージの技術実証・普及
- 5 稲WCSの生産利用拡大
  - ・稲WCSの生産利用拡大に向けた研修会の開催と、需要・供給に応じたマッチング支援の実施



もみ殻ストックヤードの実証



稲WCS現地研修会

## 対話

- ・部会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を参考に事業構築（7月、1月）
- ・二毛作の実演会・研修会やもみ殻のストックヤード実証結果の報告会を開催し、実証内容及び結果を広く周知するとともに、関係者の意見交換を実施（5～7月、2月）
- ・稲WCSの現地研修会の開催及び意見交換を実施（7～8月）
- ・公共牧場における飼料供給体制の研修会を開催し、実証内容及び結果を広く周知するとともに、関係者の意見交換を実施（11月）
- ・地域毎にもみ殻のストックヤード設置に向けた協議会を設立し、設置・運営に向けた検討を進めるとともに情報交換を実施（年4回）